

企業人の学校インターン、社会人の教員免許状の取得支援

## 多様なルートで企業や社会人の学校現場への参画を促す

複雑・多様化する時代において、社会との繋がりを通して学ぶ意義は大きく、外部人材による学校現場への参画が求められている。また、深刻な教師不足により、広く一般社会から人材を求め、教師の確保を図ることも必要だ。こうした教育課題に挑むカモマンの事業について話を聞いた。

### 企業人が学校現場に越境 教職員と協働して課題解決

新学習指導要領は「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、社会と連携・協働した教育活動の充実を求めている。

ベンチャー企業のカモマンは、2020年から「学校と社会をヒトでつなぐ」をコンセプトに、学校の課題解決と企業の人材育成を組み合わせた「リーチャー・プログラム」を提供している。企業人が学校現場に越境し、教職員と中長期的に協働しながら課題解決を進める日本では類をみないプログラムだ。

同社代表取締役の宮原うらら氏は、「学校現場に求められるニーズが年々高まる中で、教師だけではなく、社会全体が次世代の育成に対して当事者意識を持ち、公教育にリソースを還元していくことが重要です。社会で活躍する多様な人材との出会いは、子ども達にとっても、大きな価値があると考えています」と話す。

同プログラムは、企業と学校の要

宮原 うらら Urara Miyahara

株式会社カモマン 代表取締役  
慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、三井不動産株式会社入社、日本橋の街づくり/新規事業開発を担当。たくさんの「カッコいい大人」に触れられ、自身の原体験から教育×企業人の可能性に着眼。その後、2019年に株式会社カモマン設立。世界60ヶ国超のパートナーと教育事業を展開する認定NPO法人Teach For Japanの職員兼務。社名には、「Come on Monday!」な世の中を創るというメッセージを込めている。



望に応じて、実施内容・期間・頻度を完全オーダーメイドでコーディネートする。これまでに、高校生向けの事業開発の講義を企業人が1学期間に渡って務めたこともあれば、小学校の職員室に席を設け、企業人が教師と同じ目線に立ちながら学校の働き方改革に半年間併走したこともある。企業と学校の関わりは、学習支援から学校経営まで幅広い。

事業開発の講義では、実際に大手メーカーで新規事業開発を担当している企業人が、ビジネスの基本理念や事業開発に必要な基礎知識等を教授した。

また、生徒のビジネスアイデアの事業化に向けた支援も行われた。取り

組むことで、海外の貧困地域に暮らす現地人にインタビューを行った生徒は「自分の考えが、授業の枠組みを超えて社会を動かす可能性を持っているのだと実感できた。もっと色んなことを知りたくなったし、これまで英語を勉強してきたのも初めて役立つ気がした」と目を輝かしていたようだ。一方、参画する企業側の狙い

は何なのか。「企業の狙いは、人材育成を目的とした社員の越境学習です。多種多様な児童生徒、特殊な労働環境にある教師、日々予測不能な問題が勃

発する学校現場は、企業の人材にとって、最も身近な異文化だと考えています。そうした環境下に越境して、課題解決を遂行する中で、実践的なリーダーシップが育まれます。また、学校という公共性の高い場所に飛び込むことで様々な気づきを得て、本業で社会課題に向き合う契機にもなっているようです」

カモマンでは企業がスムーズに学校と協働するために、企業に対して事前研修を行う。研修では、教員経験者が学校文化や学校組織について教授するほか、メンタルヘルス、ハラズメント、コーチングなどを専門とする帝京平成大学の渡部卓教授といった専門人材が講師を担うこともある。

「学校現場への関与は、当然大きな責任が伴います。学校と企業の双方が安心安全に連携できる体制を構築することが当社が役割の1つです。プログラムをスタートして3年目を迎えますが、確かな実感を感じています。これまでは東京都内での実施を主としていましたが、今後は日本全国の学校・企業にお声がけさせていただく予定です」

### 教員資格認定試験の 対策講座を展開

教員免許状を持たない人材が教師になるための方法の1つに、小学校教員資格認定試験制度（以下「資格認定試験」）がある。教師になるには、大学等における学位と教職課程等での単位修得が通常だが、資格認定試験に合格すると、小学校教員免許状が取得できる。2020年度には、1973年の資格認定試験導入以来、初となる制度の見直しが行

われ、社会人がより受けやすい試験制度となった。

こうした中で、カモマンは、資格認定試験の受験者を対象とした「令和4年度対策講座」を、今年7月に新規事業として開講した。

「資格認定試験は、指導案作成や模擬授業等、独学では対策が難しい試験です。一方で、マーケットがニッチなためか、現存する対策講座は見当たりません。本講座では、教員養成経験を有する専門講師による手厚いサポートを提供しています」

対策講座は、一次試験の論述対策と二次試験の指導案・模擬授業対策、グループ討議対策から構成される。既に終了している論述対策講座の受講者からの評判も上々だ。二次試験に向けた対策講座にも、予想を上回る申し込みが入っているという。

「資格認定試験は減少傾向が続いており、直近の受験者数も800～900人前後の規模です。恐らく、資格への関心はあっても、過去問等を目にして、無理だと諦めている方も一定数いらっしゃると思います。純粋に、それが薄くもったいないと感じました。これまで外部人材の接続を主として事業を推進してきましたが、それは大前提として、教師という職種に対してのリスペクトがあった上でのことです。こうした対策講座を提供することで、既存の制度を活用しながら、教師を志す方が、一人でも多く教師になれる仕組みを築いていきたいと考えています」

次年度に向けて、カモマンは対策講座の在り方を大幅に刷新する。新たな挑戦の1つは、企業や団体との連携だと宮原氏は語る。

「教員免許状を取得できる試験は、実はとても貴重なものだと考えています。特に、副業兼業の推進が一般的になり、また、アクティブシニアの活用が求められるこの時代において、企業が社員に対して、資格認定試験の受験を支援するような制度ができてもおかしくないと考えています。加えて、教師という職種はアスリートやアーティスト等のセカンドキャリアとも相性が良いです。そういった人材を有する団体にも働きかけていきます」

また、民間の企業や団体だけでなく自治体との連携も見据えている。東京都では、2年以内に必要ないし免許状を取得できる見込みである社会人経験者に対して、教採試験の受験資格を付与する取り組みが始まった。対策講座を通して、そういった改革を進める自治体に協力できないか、現在構想を進めている。

「勿論、個人向け講座も継続します。今年はトライアルの意味もあって試験直前1ヶ月での開講でしたが、もう少し期間も長めに設ける予定です。また、試験合格に向けた対策を第一義としながら、副次的な効果も狙っています。受講者の皆さんが実際に教師になってからも、気軽に関わり合えるコミュニティとしての役割を果たしていきたいと考えています。異なるキャリアから教師になるという共通のバックグラウンドを持つ皆さんにとって、拠り所になれば嬉しいです」

一起業家として、既存の枠組みに捉われず、出来ることをやり尽くしたいと宮原氏は力強く話す。社会を巻き込みながら公教育の可能性に挑戦するカモマンの今後の活動に引き続き注目したい。